

患者さまへのお知らせ・お願い

ロビーコンサートのお知らせ

- 10月13日(水) 遠藤美香さん・清水紀子さん(フルート・ピアノ演奏会)
 - 10月18日(月) 泰 樹さん(ピアノ演奏会)
 - 10月28日(木) Radaさん(バイオリン演奏会)
- フルート・オーボエ・クラリネットの演奏も途中加わります。
中央棟1階会計前ロビーにて、19:00より開催いたします。30分間の演奏会です。是非お越しください。

昭和大学公開講座のお知らせ

- 日 時：平成16年10月23日(土) 13:30~16:30
受付開始時刻は、各講演とも講演開始15分前からとなっております。
 - 場 所：昭和大学横浜市北部病院 西棟4階診療放射線専門学校講堂
 - テーマ：13:30~「物忘れは本当に痴呆の始まりですか? ~アルツハイマー病を中心とした痴呆のお話~」
 - 演者：総合内科 助教授 福井 俊哉
15:00~「緩和ケアQ&A」
演者：総合内科 専任講師 坂下 暁子 緩和ケア病棟 師長 澤田 祐子
 - 予定受講者数：100名(各講演ともに)
- ※切は、**10月12日(火)必着**となっております。また当落のご案内はがき(受講票を印刷したはがき)は**10月15日(金)**に郵送させていただき予定です。
緩和ケアQ&Aにつきましては、若干空席がございますので、10月22日まで聴講の募集をいたします。
往復はがきに、住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、当院公開講座係りまでご応募ください。
「物忘れ~」の聴講希望の受付は、10月12日をもちまして終了させていただきます。
お問い合わせ先：昭和大学横浜市北部病院 管理課内公開講座係り 〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1
TEL:045-949-7000

患者様からのご意見・ご要望

日々患者さまより頂きましたご意見・ご要望に関しては関連する部署の責任者に報告しております。改善すべき点や取り入れたほうが良いことなど出来る限り対応したいと考えております。ご意見の中で特に危険なこと、多くの方が希望していることを優先に対応したいと考えております。もちろん少数意見も対応させて頂いております。

前回に引き続き、今までのご意見の中で多くいただいたものや最近よくいただくご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。
今後もお気付きの点やご要望をお聞かせください。(=進捗報告)

ご意見・ご要望	改善等
受付時間の表示について	『受付時間の表示が分かりづらいです。パンフレットも8:30~17:00(14:00)と記載があるが、実際は受付時間がほとんど11:00までに来ないと受けられないのであれば、もっと分かりやすいものに変更してください』とのご意見をいただきました。 病院案内にはスペースの都合上代表的な受付時間を記載しておりましたが、次回更新版では分かりやすく工夫させていただきます。受付時間に関しては、ホームページ及び各科受付の掲示板に最新の情報を掲示しておりますのでご利用ください。
IDカードについて	『IDカードの生年月日を消してほしい。高齢者などカードを盗られ、個人情報として使われた時、問題だと感じる。他の病院は載せていない。』とのご意見をいただきました。 当院では同姓同名の患者様を間違いないようお名前だけでなく、生年月日をカードに記載しております。患者様の間違えによる医療事故防止の為にご理解していただきますようお願いいたします。
後発医薬品(ジェネリック)について	ジェネリック医薬品について患者様よりお問合せを頂いております。 ジェネリック医薬品についてはマスコミ等でも取り上げられていることから、皆様方もご存知のことと思いますが、新規開発医薬品の特許期間が過ぎた後、他メーカーが製造した同成分の含量、効能、効果で価格が安いお薬です。 現在当院ではジェネリック医薬品についてはほとんど利用されておりませんが、院内の委員会において採用の検討を進めております。採用に当たっては、安全性、品質、安定供給、処方システムの改良、運用の変更等の様々なことを検討する必要があることから、最終的な対応を行なうまでには時間がかかります。今後ジェネリック医薬品に関する進捗がございましたら、病院だより、掲示物等でご案内させていただきます。個別のお問合せに関しては対応いたしかねますのでご了承ください。

編集後記

紅葉の季節となりましたが皆様如何お過ごしでしょうか?
食欲の秋でもあります、ついつい食べ過ぎてしまったなと感じたら、週末には(翌週の食事に備えて?)継続可能な20分以上の運動を行うことが推奨されます。日本人が寝たきりとなる要因の第1位は脳卒中、次いで痴呆あるいは転倒骨折です。特に転倒骨折に関しては運動と食事コントロールにより50%が予防可能です。
最近の国内データでは平均73歳の方々が半年間の筋肉トレーニングを続けたところ体力年齢は10~15歳若返った。とありますので年齢に関係なく適度な運動を心がけましょう。
また、30分ウォーキングが可能となれば42.195kmを完走できる?とする書物もあります。日々の生活の中で歩く機会の少ない方はとても多いと思います。ジョギング・マソジは最も手軽なスポーツでありますので42.195km目指してLet's enjoy sports.
広報委員会 委員 門倉 義幸

北部病院だより 第24号
平成16年10月1日発行
発行責任者 田口 進(昭和大学横浜市北部病院長)
編集責任者 島田 誠(広報委員会 委員長)
発行 昭和大学横浜市北部病院
〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1
電話 045-949-7000(代表)
URL: http://www10.showa-u.ac.jp/~hokubu/
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』が参照できます。

北部病院だより 第24号

第24号【2004/10/01 発行】

発行者：昭和大学横浜市北部病院

巻頭言

『煙(けむ)にまかれるお話』
呼吸器センター 助教授 門倉 光隆

イベント情報

大腸 c研究会(消化器センター)
新横浜プリンスホテル

ロビーコンサート

ボランティア活動の紹介

医師の配属・異動・退職

診療統計

外来担当表

患者さまへのお知らせ・お願い

ロビーコンサート日程

公開講座のお知らせ

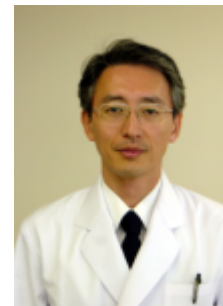
患者様からのご意見・ご要望



皆さんの秋はどの秋ですか? 読書、食欲、スポーツ、芸術・・・?

巻頭言

『煙(けむ)にまかれるお話』



呼吸器センター
助教授
門倉 光隆

北部病院開院から丸3年が瞬間に経過し、開院後4回目の夏がアテネオリンピックとともに過ぎて行きました。この原稿を執筆する中、夜になるとあの暑い夏が嘘であったかのような涼しい風とともに公園の草むらからは心地よい虫の音が聞こえ、心が“ホッ”とすると同時に、以前に買い込んで本棚の飾り物となりつつある本達をこの秋の夜長に読破してみようかという意欲に燃える毎日であります。

最近では地域の人口増加とともに高齢者の受診も増加し、呼吸器外科手術を受けられる方の年齢も徐々に上がる傾向を示しております。当呼吸器外科では『原発性肺癌や転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍・自然気胸・胸部外傷・先天性肺疾患など』の手術を行い、さらにやや毛色の異なる場所としては『手掌多汗症の手術』があげられます。自然気胸や手掌多汗症の手術を受ける方は20歳前後が多く、一方、肺癌などは50歳以上の方が中心となりますが、手術対象全体では10歳代から80歳代まで幅広いものとなっております。

その昔、呼吸器外科といえば肺結核に対する肺葉切除や胸郭成形術が代表的な手術でしたが、現在それらに代わり増加の一途である肺癌手術の歴史は比較的浅いといえます。しかし、日本

の肺癌外科治療は世界でもトップクラスの技術と成績を誇り、科学技術の進歩とともにその評価はさらに向上しています。近年、日本でも肺移植手術や、肺気腫の機能回復を目的とした手術を行います。肺癌など多くの手術では肺切除が必要となるため、術前と比較して呼吸機能の低下が避けられません。手術をせずに済むのであればそれに越したことはありませんが、病気を克服して本来の生活を取り戻すためには積極的に対応すべき場合もあります。

人は65歳以上になると医療機関への受診率が急激に増加します。いまや日常生活の中には発癌性物質が氾濫し、75歳までの間に男性の50%、女性の30%が何らかの癌にかかることとされています。悪性腫瘍が日本人の死因第1位になって約20年が過ぎ、中でも肺癌による死亡の増加は著しく、男性においては癌による死亡率の第1位に肺癌が浮上してから既に数年が経過しています。その傾向はさらに強く、女性でも同様に増加傾向がみられています。

日本人の喫煙率は男性が約50%、女性が約20%とされ、若年女性ではさらに高い傾向にあります。最近では電車の中吊広告やテレビのCMでJT(日本たばこ産業)から「あなたが気づけばマナーはかわる」など、タバコの害やマナーに関するものが出されていますが、「今頃になって、やっと・・・!」という感否めません。タバコの愛好家ですら他人の煙を嫌う傾向にありますが、いざ自分がタバコを吸うとなると、後ろを歩く人や隣に座った人のことが気にならない方も居られるようです。「タバコは歩くアクセサリー」などともいわれますが、“路上の喫煙禁止やポイ捨て禁止運動”さらに“歩きタバコ禁止条例の制定”などが全国各地で進められています。そのためどうかは判りませんが、市営地下鉄「センター南駅」を出て直ぐタバコに火をつけて歩きだす人も減ったように思われます。

肺癌の発生原因としてタバコは勿論のこと、環境汚染物質など様々な因子の関与が指摘されていますが、女性喫煙者の増加や未成年からの喫煙開始によってこのまま肺癌患者が増加すれば、われわれ呼吸器外科医は暇になるどころかさらに忙しくなるものと思われれます。この「病院だより」の前々号(第22号)では『禁煙のすすめ』と題して巻頭言が掲載され、さらに本号で追い討ちをかけるように「けむり」の話では愛煙家の耳にタコができそうで申し訳ありませんが、これから先、タバコの販売本数が激減するなどは予想もできず、「タバコを吸う光景を目にするのはめずらしくなった。」などと言える日を夢みながら、次号にバトンタッチ。

